



荒川・F 11

ケールも小さく、滝も五段位のがかかるにすぎない。

砂防ダムを更に二ヶ所(三つ)越えていくと沢は明るくなり、樹林帯の中をなだらかに流れるようになる。やがて二俣となり、更にその上流に橋がかかっていて建物が見えてくる。新幕川温泉である。コケの多くなつた平凡な沢筋を更につめていく。

しめなわが張られていたり、ケルンが積まれていたりするのを見ながら幕滝に到着。

幕滝は荒川随一の滝だ。狭い落口からの水と滝の中段にある透水層を通してわき出す水がすばらしい調和をな

している。滝の左岸中腹には洞穴が掘られ不動明王がまつられている。古くから信仰の対象になつてきたようだ。左岸の草付きを登り樹林帯をトラバースして滝の上に出る。もう水量もぐつと小ない。

ナメを越え二〇分程の滝を直登するともう源流部だ。じきにスカイラインを走る車の音が聞こえ、一四時五分スカイラインに飛び出す。

(タイム)

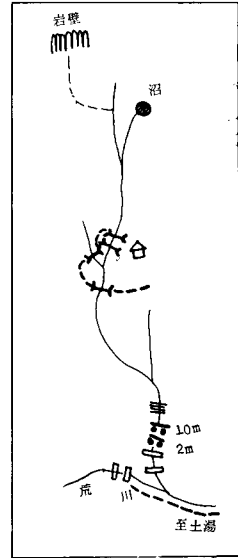
出合七・五〇―大岩滝九・一〇―風岩滝一〇・〇〇―
新幕川温泉一三・〇〇―幕滝一三・二五―スカイライン
一四・五五―鳥子平一五・〇五

黒 沢

一九七九年七月八日

◆天気(晴)

荒川にかかる砂防ダムの上を渡つて黒沢出合へ。間もなく滝が出るが、あとが続かない。ダラダラと歩くうちに橋に出ってしまった。小休止のあと水源の沼を目指して出発。左岸には林道が続いている。枝沢が所々にあるが、



黒沢
(作図:)

まもなく水も涸れ、岩壁につきあたった。

さては見過したかと思ひ、引き返して沼をさがす。沼は左岸の小沢を小し入ったところにあつた。沼の水は冷たい。水底には藻が青くつき、気味悪い感じだ。橋までもどり、林道を歩いて男沼へ出る。(記・塚 治)

〔タイム〕

黒沢出合八・三五―橋一〇・二〇―岩壁一一・三〇―沼一三・三〇―橋一四・二〇

小倉川

一九七五年八月十七日

◆天気(曇り後雨)

福島発六時。小雨が途中から本降りとなった。蒲谷地



小倉川・F1

登山口から少し入った所まで車で送ってもらおう。途中で道をまちがえたりして沢登り開始八時〇五分。一時やんでいた雨がまた降り出してきた。

はじめは何の変化もない沢で飛石伝いに進む。石の間を落ちる二〜三層の小滝があるのみ。九時一〇分頃鉱山跡らしき所を通り、そこから二〇分後やっと五層の滝に出会う。「滝らしい滝があつた。」と喜び写真をとる。その後七層の滝は左岸を直登。滝らしい滝とはこの二つ位のものでした。源流も近くなると涸沢となり、大きな岩がゴロゴロしていて急に高度をかせぐ。